



エプロン通信員

宮里 希見子

早いものでエプロン通信員となり、六年の歳月がながれました。私のつたない文章を読んでくださっている皆さんに深く感謝いたします。

夢の舞台を目指して、今年も頑張りますので宜しくお願いいたします。

エプロン通信員

神賀 郷子

この通信員を始めた時はまだ幼な子だった長男が、この四月に小学生になります。彼の成長に私が追いついていないので、怒ってばかりの毎日です。一年生になる彼にならって私も心機一転、心を新たにこの一年をスタートしたいと思っています。どうぞよろしくお願います。

エプロン通信員

城間 ちえみ

最近、若者の間で「ググる」という言葉がはやっていてるそう。これは検索サイトの「google」から来ているというのだ。検索機能に言葉を入力するだけで色々なことが知識として入り、最近では検索することが楽しみになっている。

先日、ある文学者の名前を入れて検索したところ、面白い程人物紹介がなされ、しかも作品が居ながらにして楽しめる「青空文庫

<http://www.aozora.gr.jp> index.htmlというサイトを見つけた。どうぞ開いて見て下さい。

今年も身体で見聞したことをググリ私なりにまとめて投稿したいと思います。宜しくお願いします。

エプロン通信員

木村 美乃

エプロン通信員となって一年が経ちました。

それぞれの書いた文章を「ここはこうした方がいい・・・」「この表現は・・・」などと推敲し合う作業は、想像以上に楽しいものでした。

さて、通信員が板につき始めた(?)矢先、家族の転勤が決まり、この春住み慣れた宜野湾市をしばし離れることになりました。さみしい気持ちもありましたが、私のホームタウンである宜野湾市を外から見つめる、またとない機会になるのでは、とわくわくしています。

またお会いする日まで!

【お詫び】

二〇〇八年三月号「エプロン通信」の文章の一部が欠落した箇所がありました。エプロン通信員の皆さま並びに市民の皆さまへ心からお詫び申し上げます。



ぐわわーゆんたく

48



ぎのわんのシーサー 村落の守り神

シーサーと聞くと何を思い浮かべますか。家の門や屋根に置かれた獅子像が頭に浮かぶのではないのでしょうか。このように、屋敷の守り神として知られる獅子像ですが、県内各地には村落の守り神として、村落の出入口や高台などに置かれている獅子像もあります。

沖縄のシーサーは古代オリエントを起源とし、中国を経て十四、十五世紀頃に伝わったといわれ、獅子舞や石製の獅子像として沖縄各地に広がりました。村落の獅子像は、戦前の宜野湾には、新城・伊佐・嘉数・我如古・喜友名・普天間の六カ字に、厄除けとして置かれていました。しか

しそのほとんどは戦災などで失われ、今では嘉数と喜友名に残るのみです。嘉数では、イーヌヤマ(現嘉数高台公園)にあった石製の獅子像が戦災で失われた後に、陶製の獅子像が置かれました。その後、石製の獅子像も造られ、二体の獅子像が村落を火事から守るヒエゲーシ(火伏)として並んで置かれています。また、喜友名には県内最多の七体の獅子像が、喜友名の出入口で今でも人びとを見守っています。

長年、村落を守護してきた獅子像、表情豊かな獅子像を、散策してみたいかがでしようか。楽しい発見がありますよ。



手前が石製、奥が陶製(嘉数)



村落の出入口に置かれた獅子像(喜友名)

「宜野湾市史」への問い合わせ
教育委員会文化課
☎893-4431